

中世の黎明、探る地に

【本堂寿一氏】
安倍が、在地系か中央系かという論戦がある。大平先生は、どちらに軍配を上げようと考えているのか。

【大平聡氏】
私は基本的には人間田宣夫さん（東北大名嘗教授）のハイブリッド（混血）論でいけると思っている。

エミシの世界は、首長がいて、それぞれの一族が存在していたが、横の連携はなかった。そこに



本堂寿一氏

「安倍館」という名称が非常に多く存在している。これは、中央政府に取り込まれていたエミシの一族が安倍グループに入り、勢力を広げていった結果、グループの拠点が安倍館という名称で表されたのではないかと。在庁官人というのは日本史の中世を解く鍵で、非常に重要なキーワードになっている。その在庁官人の活動が、かなり具体的に分かるのが、陸奥話記と奥州後三年記。特に陸奥話記の世界が大事だと思っ

入り込んできた中央政府が巧みに手なすけ、言うことを聞く者と主従関係を結んだ。その中に、下向してきた「安倍氏」が入り、勢力を広げていった結果、グループの拠点が安倍館という名称で表されたのではないかと。在庁官人というのは日本史の中世を解く鍵で、非常に重要なキーワードになっている。その在庁官人の活動が、かなり具体的に分かるのが、陸奥話記と奥州後三年記。特に陸奥話記の世界が大事だと思っ

で、非常に多く存在している。これは、中央政府に取り込まれていたエミシの一族が安倍グループに入り、勢力を広げていった結果、グループの拠点が安倍館という名称で表されたのではないかと。在庁官人というのは日本史の中世を解く鍵で、非常に重要なキーワードになっている。その在庁官人の活動が、かなり具体的に分かるのが、陸奥話記と奥州後三年記。特に陸奥話記の世界が大事だと思っ

金ケ崎の国指定史跡 鳥海柵を知る

— 2014 シンポジウムより —



パネルディスカッション要旨 Ⅲ

鎌倉政権の原型が奥州藤原氏だとすると、奥州藤原氏の原型を築いたのが安倍氏。安倍氏の中に中世の胚胎、生まれる芽が見えている。

平泉奥州藤原氏の姿、陸奥・安倍氏の姿、出羽・清原氏の姿は、日本の中世史を開いていった人たちの具体的な姿として認識すべきであって、陸奥、出羽の特別な地域に限った特殊な現象ではない。

在庁官人の在り方を見ていると、人格的な主従関係であり、役所の機構によって決まるものではない。「人格的主従関係」と強調するのは、まさに武家政権の特徴だということ。つまり、大石直正先生が早くから言われていた「中世の黎明」は、東北地方にあった。

国史跡指定を受け、まずは安心したが、問題はこれからどう遺跡を保存していくか。そのため会ではいろいろ検討しているが、ぜひ、金ケ崎に研究センターが生まれてほしい。



大平聡氏

【本堂寿一氏】
安倍氏とは一体何か。この問題はすぐに決着をつけないで、もっとも議論を深めていくべきだ。その中心が金ケ崎だと思ふ。安倍氏の遺跡を前にして話せるところは、日本中探してもほかにない。安倍の研究センターは、金ケ崎じゃないとつくり上げることができない。

【大平聡氏】
安倍氏の母体は、基本的にエミシ論で言えば、アイヌは種族だが、東北の人たちのほとんどは南から来た人たち。それをエミシと呼んだのは、律令国家が華夷という区分において、東北の人たちに与えた身分と考えている。

社会的変化の中で、支配・非支配の関係、同盟の関係が変化していく。それを文献に則して見ていくことができるのが、陸奥国の資料の残存性と考えると。

【本堂寿一氏】
私のエミシ論で言えば、アイヌは種族だが、東北の人たちのほとんどは南から来た人たち。それをエミシと呼んだのは、律令国家が華夷という区分において、東北の人たちに与えた身分と考えている。

- ▽コーディネーター
本堂寿一氏 (元北上市博物館長)
- ▽パネリスト
大平 聡氏 (宮城学院女子大学教授)
高橋信雄氏 (花巻市博物館長)
高橋 学氏 (秋田県埋蔵文化財センター主任文化財専門員兼班長)